

# オガレ! ACE

ものづくり産業広報誌

2019.7  
Vol.21

特集 仕事図鑑

## ものづくりにかける

ようこそ宮城へ!  
株式会社ニッケ機械製作所

技の肖像  
吹きガラス工芸家  
佐藤 元洋さん

Report 技能士を育てる。  
ハリウコミュニケーションズ  
株式会社

みやぎものづくり女子  
白石ポリテックス工業  
株式会社  
佐藤 蓮さん

あすを拓く  
株式会社コイワイ  
小岩井 豊己さん



ものづくり産業広報誌 オガレ! ACE Vol.21 発行:宮城県(産業人材対策課) 編集:ハリウコミュニケーションズ株式会社

厚生労働省委託 若年技能者人材育成支援等事業

広告

若年技能者の人材育成・技能継承をお考えの事業主・教育機関等の皆様へ

学びの環境づくりから未来の人材育成へ!

## ものづくりマイスター制度

ものづくりマイスター・ITマスターが宮城県内の小学校・中学校・高校・大学・中小企業を訪れ、出前授業や実技指導を実施しています。是非ご活用ください。

小学校で



大崎市立高倉小学校

IT体験教室でロボットプログラミングの出前授業を実施。

高等学校で



白石工業高等学校建築科

高校生ものづくりコンテスト(木材加工部門)に向けての実技指導を実施。

大学で



石巻専修大学

大学の実習で電気溶接の実技指導を実施。

中小企業で



クラシタ株式会社

若手社員を対象とした建築板金の実技指導を実施。

ご活用ありがとうございました。

昨年度も、多くの学校・企業の皆様に、ご活用いただきました。本年度も引き続きよろしくお願いいたします。

平成30年度の実績

19職種・98プログラム・3,803人

高等学校:70プログラム・2,796人/中小企業:15プログラム・308人  
小中学校:13プログラム・699人

まずは、  
宮城県技能振興コーナー

までお問い合わせください。

TEL.022-727-5380

FAX.022-727-5381

宮城県技能振興コーナー 検索

次号予告

オガレ! ACE Vol.22は2019年9月発行予定です。

年4回発行(7月、9月、12月、3月)

オガレ! ACEはウェブサイトでも  
ご覧いただけます



この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。



この印刷物は、輸送マイルージ低減によるCO2削減や地産地消に着目し、国産米ぬか油を使用した新しい環境配慮型インキ「ライスインキ」で印刷し、印刷用の紙へリサイクルできます。

発行=宮城県(産業人材対策課)  
編集=ハリウコミュニケーションズ株式会社

本冊子は12,000部作成し1部あたりの単価は204円です。

# ものづくりにかける

## 特集 仕事図鑑

CKD

CKD 株式会社 東北工場  
倉本 美紗さん



株式会社ヤマニシ  
櫻井 汰生さん



株式会社若柳タムラ製作所  
高倉 翔さん



株式会社東北スヤマ  
中澤 寛人さん

宮城県内のものでづくり企業では、どのような製品が作られ、どんな仕事をしている人がいるのか……。現場で働く4人のエースの姿と生声から、宮城のものでづくりの「いま」を紹介します。

# オガーレ! ACE

Vol.21

ものづくり産業広報誌

01 ようこそ宮城へ!  
株式会社ニッケ機械製作所  
東北事業所

02 特集・仕事図鑑  
ものづくりにかける

[CASE.1]

製造  
倉本 美紗さん  
CKD 株式会社 東北工場

[CASE.2]

配管工  
櫻井 汰生さん  
株式会社ヤマニシ

[CASE.3]

検査  
高倉 翔さん  
株式会社若柳タムラ製作所

[CASE.4]

製造  
中澤 寛人さん  
株式会社東北スヤマ

15 技の肖像  
吹きガラス工芸家  
佐藤 元洋さん

16 Report 技能士を育てる。  
ハリウ コミュニケーションズ  
株式会社

17 みやぎものづくり女子  
白石ポリテックス工業株式会社  
佐藤 蓮さん

19 あすを拓く  
株式会社コイワイ  
小岩井 豊己さん

21 NEWS BOX

### オガーレ! ACEについて

「オガーレ!」は、宮城の方言「おがる(育つ)」と応援のかけ声「オーレ」の造語です。ACEには、Active(アクティブ)、Creative(クリエイティブ)、Energisch(エネルギッシュ)の頭文字をとり、活動的で創造的であり活力にあふれる人材(エース)の育成を支援したいという思いを込めました。



むすひ丸

ようこそ  
宮城へ!



東北事業所 新工場イメージ

## 株式会社ニッケ機械製作所 東北事業所 (登米市)

株式会社ニッケ機械製作所は、東証一部上場の日本毛織株式会社(通称…ニッケ)が100%出資するニッケグループの会社です。ニッケグループは毛織物メーカーから事業複合体へと変革し、様々な事業を展開しています。

当社は電気電子機器分野を得意としており、特に自動車業界向けを中心としたFA設備(自動組立機・搬送機)、ロボット応用装置、計測機器、検査装置に至るまで、幅広いお客様のニーズにお応えしています。グローバル化の進む今日、目まぐるしく変わるお客様の声をしっかりと受け止める独自の提案が求められる中、これまで培ってきた豊富な経験と新しい技術を融合させ、お客様の工場に導入する自動生産ラインを設計開発いたします。

日本では少子高齢化が進む中、労働人口減少という問題を解決するためには、省人化を実現できるFA設備が欠かせないものとなっています。さらには品質の安定化や生産性の向上も期待できることもあって、今後も需要は拡大していく傾向にあり、様々な分野で注目を集めています。当社の

一番の強みは、受注から設計・製造・搬入据付・アフターフォローまで一貫して対応出来ることで、設計技術者は100人以上、製造技術者も80人以上有しています。お客様ごとの特注仕様にも細やかに対応しています。

今回、宮城県登米市に新工場を立ち上げますのは、既に東北地方のお客様から受注を頂いており、これまでのように兵庫県・愛知県・神奈川県の間、東北地方の拠点としてお客様のニーズにこたえられるよう、サービスの向上を図りたいと考えたからです。

新しい拠点を築く上で、宮城県のみならず共に地元を盛り上げていきたいと考えています。設計を志す方にとってはご自身が設計したものがお客様の工場にて自動生産しているところまで確認できます。製造技術者においては、空調管理が徹底されたクリーンな工場で作業しています。新工場の操業は、2020年7月の予定です。東北地方の要となる拠点への期待が膨らんでいます。



所在地/登米市迫町北方字大洞地内  
(長沼第二工業団地)  
<http://www.nikkeikikai.com/>

代表取締役社長/長岡 豊

資本金/5,000万円

従業員数/322人(2019年6月現在)

※東北事業所:操業開始時15人を予定  
(最終人数50人を予定)

事業内容/各種メカトロニクス装置の企画・設計及び製作、マイコン・シーケンサを応用した電気システム設計及び製作、各種機械ユニットの部品設計及び製作、機械設備のメンテナンス



企業情報

CKD 株式会社

所在地 / 本社：愛知県小牧市応時 2-250  
東北工場：黒川郡大衡村松の平 2-18  
TEL 022-344-3501  
https://www.ckd.co.jp/



代表取締役社長 / 梶本 一典  
資本金 / 110 億 1,600 万円  
設立 / 1943 年 4 月  
従業員数 / 177 人 (東北工場：2019 年 6 月現在)  
事業内容 / 自動機械装置及び省力機器、空気圧制御機器、駆動機器、空気圧関連機器、ファインシステム機器、流体制御機器など機能機器の開発・製造・販売・輸出  
企業理念 / 私達は創造的な知恵と技術で流体制御と自動化を革新し豊かな社会づくりに貢献します。

数千から数万点の部品が集積  
組み立てにはチームワークが不可欠

同社は、工場向けの機械メーカーで、自動機械装置や省力機器、空気圧機器などを製造している。手掛ける製品は数十万アイテムを超え、自動車・家電・半導体・医薬・食品など幅広い産業分野において、ものづくりの自動化を支える。  
2019年2月に稼働した東北工場では、半導体の製造に使う浄水や薬液、薬ガスなどの流量や圧力を高精度でコントロールする半導体製造装置向けの流体制御機器などを製造している。「流体」とは、気体と液体の総称のこと。同工場では、徹底管理さ



小さなパーツを組み合わせ  
お客様の願いをカタチにする

図面を見て製品の組み立てに使う部品をチェックする倉本美紗さん

れたクリーンルーム内でもものづくりが行われ、不純物や汚れが厳禁の半導体製造現場のニーズに対応する。  
「完成したばかりの工場はどこもピカピカです。明るくきれいな環境で仕事をするので、とても気持ちが良いですね」と倉本さんは笑顔だ。

倉本さんは、ほかの6人のメンバーと協力して、薬ガス供給ユニットの組み立てから検査を行っている。数千から数万点にも及ぶ部品がコンパクトに集積されているユニットの組み立ては手作業で進められ、製品によっては7人がかりでも完成までに3日ほどかかるという。  
「スムーズに作業を進めるため、チームワークが欠かせません。私も積極的に意見を出して、リーダーやメンバーとコミュニケーションを図っています」と倉本さんは話した。

入社1年目は愛知県へ  
新しい仕事のノウハウを学ぶ

子どもの頃から、自分の手を動かして何かを作ることが好きだったという倉本さん。工作が得意で、紙をはさみで切ったりノリで貼ったりして遊んでいたのだそう。高校は地元にある黒川高等学校に進学し、環境工学科で学んだ。「建築について学んだり、木製の棚を製作したり。ものづくりに関する実習が多くて楽しかったです」と振り返る。

「世界のFAトータルサプライヤー」を目指す CKD株式会社

CKD 株式会社は、自動化 (FA) 技術のバイオニアとして、常に時代のニーズを先取りした、様々な製品を研究開発してきました。現在、国内7工場とアジアにある海外5工場で生産された数十万点にも及ぶ製品が、幅広い産業分野で活躍しています。

自動機械装置

創業以来の伝統を受け継ぐ「照明製造システム」をはじめ、医薬品・食料品を中心とした「自動包装システム」やリチウムイオン電池などの「二次電池製造システム」、「はんだ印刷検査機」など、産業の垣根を越えた多様な自動機械装置を製造しています。



薬品包装機

機器製品

水・空気・ガス・蒸気・油などの流体を制御し、有効に活用するためのユニットやシステムの開発は、同社の技術領域の重要な柱です。空気圧機器や流動制御機器、半導体用ファインシステム機器、省力機器など、豊富な機器商品がものづくりを支えています。



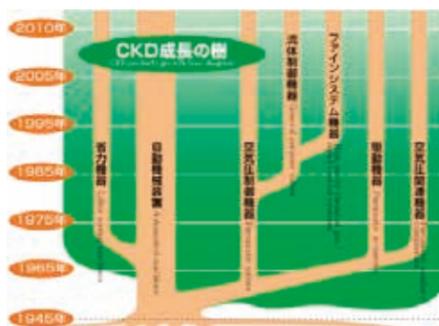
集積化ガス供給システム



空気圧シリンダ



助力装置



仕事 01  
CASE 01

多種多様な自動化・省力化機器で  
ものづくり産業の「働き方」を変える

製造 倉本 美紗さん (22 歳)  
CKD 株式会社 東北工場 (大衡村)

半導体製造装置に搭載する  
薬ガス供給ユニットの組み立てを担う  
室内の温度や湿度が一定に保たれ、空気中の塵やほこりなどをカットし、微粒子レベルできれいに管理されたクリーンルーム中ではクリーンスーツに全身を包んだ倉本美紗さんが、手に取った部品と図面を照らし合わせ、防護用のゴーグル越しに真剣な眼差しを送っている。  
これから取り掛かる作業は、半導体製造装置に搭載される「薬ガス供給ユニット」の組み立てだ。半導体の材料であるシリコンウェーハの加工に使われるガスなどの供給をコントロールする装置で、倉本さんが働くCKD株式会社東北工場の主力製品の一つである。  
「組立工程は、小さなミスでも部品そのものが使い物にならなくなってしまうことがあります。コストや時間のロスが生まれますし、その部品の製造に関わった全ての人に迷惑をかけてしまうことになるため、『私に任された仕事は、最後まで責任を持ってやり遂げるぞ』という強い気持ちで取り組んでいます」  
そう話す倉本さんは、同工場で徹底されている「ワンアクション・ワンチェック」を実践。こまめな確認を意識し、安全で正確な仕事を心掛けています。  
「組み上がったユニットが無事に検査をクリアして初めて安心できますし、頑張り



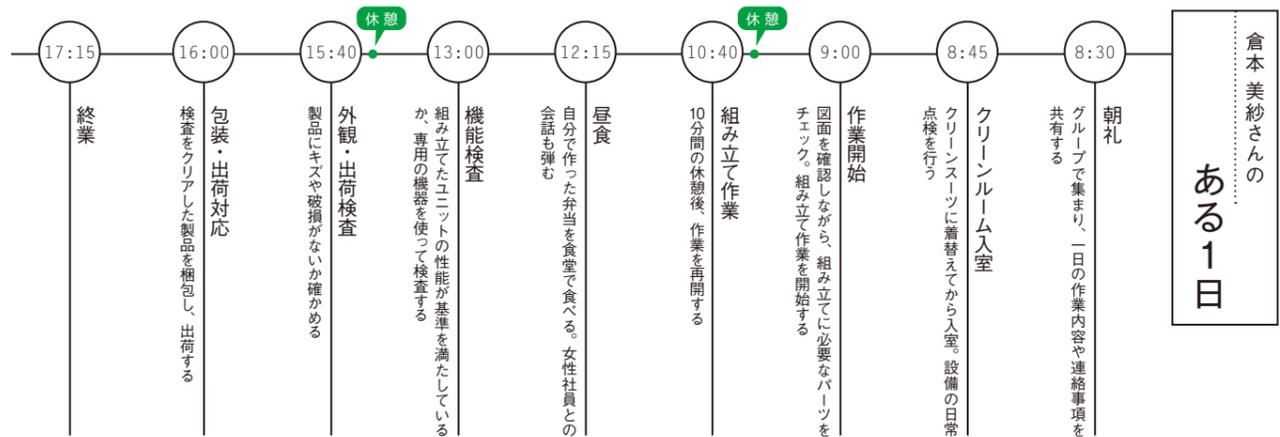
リーダーからの作業の流れや役割分担などについての説明に耳を傾ける



リストで確認しながら組み立てに必要な部品を集める



クリーンスーツやマスク、ゴーグルを着用。気持ちを「仕事モード」に切り替える



休憩時間はクリーンルームから退出する。休憩室で同僚との会話で盛り上がる



出荷する製品にキズなどが見られないか外観を検査する



専用の測定器を使って組み立てたユニットの性能を検査する

未来のACEへ  
先輩からのアドバイス

当り前のことかもしれませんが、自分が好きな分野、興味がある分野で働くことが一番です。仕事に対するモチベーションが違いますし、苦勞も楽しく乗り越えることができます。いい職場を見つけたら、高校生のうちから好きなことに精一杯打ち込みつつ、興味のあることを増やしていくことだと思います。

どんな仕事でも失敗や悩みはつきものです。そんな時は一人で抱え込まないで、先輩や上司に相談してください。きっと良い方向に導いてくれますし、その経験が今後の仕事に必ず生きるはずです。

ここ東北工場のように、ものづくりの仕事でもきれいな環境や作業中に体に負担が掛からない設備が整っていて、女性も活躍できる職場があります。多くの女性のみならず、興味を持ってくれたらうれしいです。

## 上司に聞く

生産部 製造2G  
クループリーパー  
宮西 進さん

### チームの「紅一点」でムードメーカー 女性リーダーとしての今後の成長に期待

チームでただ一人の女性メンバーである倉本さんは、男性メンバーと積極的にコミュニケーションを図って業務にあたってくれています。

一つの製品をチームで時間をかけて完成させる薬ガス供給ユニットの組立工程では、メンバー間のちよつとした意思疎通の乱れが、納期の遅れにつながりかねません。倉本さんは、男性メンバーの間に入り、持ち前の明るさと細やかな気配りでチーム内の良好な雰囲気づくりを支えています。

東北工場では、女性が活躍できるようにさらに採用と環境整備に力を入れていく予定です。倉本さんには、東北工場一期生の女性社員として、後輩たちを引っ張ってほしいと思っています。責任感とリーダーシップを持った倉本さんなら、私たちの期待に十分応えてくれると信頼しています。

しながら組み立てた製品が完成した時や、その製品が検査を無事にクリアし出荷された時、倉本さんは大きな達成感を得ることができたという。

**人の「笑顔」がモチベーション  
ものづくりができる喜びを実感**

完成した薬ガス供給ユニットは、半導体製造装置メーカーに届けられ、装置に搭載される。その装置が世界中の半導体メーカーで半導体を生み出し、私たちの生活に欠かせないスマートフォンや電化製品、自動車などに使われている。倉本さんは、「取引先のお客様が喜ぶ顔や、半導体が使われている製品で便利な生活を送る人たちの笑顔を想像するとうれしいです」と話す。

「人の力で何もないところから部品を組み立てて形あるものを作り出すことができるところ。そこがものづくりの面白いところなんです。大好きなものづくりができる幸せをかみしめ、半導体製造を支える今の仕事に対する誇りとやりがいを感じている。

「将来は周囲から頼られ、どんな現場も任されるような存在になりたいですね」と抱負を語る。でも今はまだ知識も経験も足りない。そのため、ほかの工程や別の製品も経験し仕事の幅を広げたいと思っているという。

新しい環境で、新しい仲間と、新たなものづくりに取り組む。倉本さんの挑戦は始まったばかりだ。

高校卒業後は地元でものづくりの仕事をしたかった。思い、県内の工場で働いた。同社には2年前に就職、入社当時は東北工場が完成する前だったため、愛知県にある春日井工場1年間、薬ガス供給ユニットの組み立てを学んだ。

「地元を離れ、知らない土地での一人暮らし。仕事の内容も初めて覚えることばかりでした。最初はとても不安でしたが、新しい環境での仕事や生活がとても新鮮で、宮城県に戻る時は、かえって寂しい気持ちになりました」

現在倉本さんは、春日井工場と一緒に学んだ6人とチームを組んで働いている。年齢も性格もそれぞれで、これまでのキャリアも異なるメンバー。状況判断や課題解決が求められるケースで、最初はメンバーの中で意見が食い違うことがしばしばあったという。

「そんな時には、春日井工場での経験が生きました。現地の先輩社員から学んだことを思い出し、最適な方法についてみんなと話し合いました」

メンバーと協力して一つ一つ課題を解決



2019年2月に稼働した東北工場。自動倉庫を初めて導入するなど作業の省力化・自動化を図り「人にやさしい工場」を目指す

CASE 01  
仕事図鑑

## 多種多様な自動化・省力化機器で ものづくり産業の「働き方」を変える

製造  
倉本 美紗さん (22歳)  
CKD 株式会社 東北工場 (大衡村)

## 100年の伝統技術を次世代につなぐ 株式会社ヤマニシ

同社では、創業以来磨いてきた船舶の製造や修繕のノウハウを生かし、様々な分野で事業を展開しています。

### 新造部門

貨物船やフェリーといった総トン数10,000トンクラスの大型船舶や、漁業実習船や官公庁の船舶など様々な船舶を作っています。最新の船舶技術を生かし、省エネや環境面への配慮、バリアフリーへの対応など、現代のニーズに応えています。



琉球エキスプレス

### 修繕部門

船舶の修理や定期検査を行い、安全な航行を支えています。船の製造や修繕などを行う「ドック」と呼ばれる施設には、巨大なポンプが付いていて、学校のプール約126杯分の水を満すドックの中の水を3時間30分で空にすることができます。



ドライドック

### 陸上部門

同社では、棧橋や橋梁、GPS 波浪計など海に関する設備をはじめ、送電線の鉄塔や火力発電所・清掃工場の煙突といった鋼鉄製の大型構造物の製造・工事も手掛けています。造船で培ってきた高い技術が、生かされています。



鋼鉄製棧橋

### 企業情報

株式会社ヤマニシ

所在地 / 石巻市西浜町1-2  
TEL 0225-82-5551  
<http://www.yamanishi-miyagi.co.jp/>



代表取締役 / 長倉 清明  
資本金 / 21 億円  
設立 / 1920 年 3 月  
従業員数 / 148 人 (2019 年 6 月現在)  
事業内容 / 造船業、船舶修理、鉄構造物製造業、損害保険代理業、生命保険代理業  
経営理念 / 常に改善 常に前進

高校を卒業後、同社への入社が叶った櫻井さん。機装部門に配属された1年目からプロに求められる精度の高さに戸惑う先輩の教えを必死にメモに残す

「船の形に組まれた鉄板を溶接する作業者の姿や、溶接面の仕上がりをみて感動しました。高校で初めて溶接を学んで、面白いと思っていたので、自分もこの会社に就職して大きな船を作ってみたいなと思いました」

石巻市出身の櫻井さんが、ものづくりの事に興味を持ったのは、小学6年生の頃

高校3年生の時に造船所を見学圧倒的なスケールに心が揺さぶられる

付けを担当する櫻井さんは、注意深く作業を進めているという。作業の安全面についても注意を怠らない。「船体の内部は狭いところが多く、構造も複雑です。けがや事故を起こすことがないようにヘルメットやマスクの着用はもちろん、常に安全を意識して作業しています」と櫻井さんは話した。

当時、クリーニング店を営む実家が、東日本大震災による津波で浸水被害を受けた。海水を被り壊れてしまった店の設備を復旧させる修理業者の姿に、櫻井さんは心を奪われた。「機械に向かっているいろいろな工具を使い、元に戻していく作業をそばで見てカッコイイと思いました」

中学校を卒業後、石巻工業高校の機械科へ進学し、機械加工や溶接などのものづくりの基礎を学んだ。そして就職活動を控えた高校3年生の夏、櫻井さんは同社へ見学に訪れた。

「クレーンや倉庫、製造中の船体、見るもの全てがとにかく大きくて、現場の迫力に圧倒されました。その中で、小さく見える一人一人の作業者が、協力して巨大な船を作り上げる姿がとても印象に残りました」と振り返る櫻井さん。中でも一番目に留まったのが、溶接をする作業者の仕事ぶりだったという。

仕事  
図鑑

CASE

02

# 伝統技術と最新技術が融合 造船で海上輸送の未来を拓く

配管工

櫻井 汰生さん (20 歳)

株式会社ヤマニシ (石巻市)

「船には、たくさんの配管が張り巡らされています。生活用水やエンジンの冷却水などの水を送るパイプ、空気や排気を送るパイプ、燃料や油を送るパイプなど使い道も様々です」。どれも船舶の安全な航行や乗員乗客を守る大切な生命線だけに、取り

「船には、たくさんの配管が張り巡らされています。生活用水やエンジンの冷却水などの水を送るパイプ、空気や排気を送るパイプ、燃料や油を送るパイプなど使い道も様々です」。どれも船舶の安全な航行や乗員乗客を守る大切な生命線だけに、取り

「船には、たくさんの配管が張り巡らされています。生活用水やエンジンの冷却水などの水を送るパイプ、空気や排気を送るパイプ、燃料や油を送るパイプなど使い道も様々です」。どれも船舶の安全な航行や乗員乗客を守る大切な生命線だけに、取り

「船には、たくさんの配管が張り巡らされています。生活用水やエンジンの冷却水などの水を送るパイプ、空気や排気を送るパイプ、燃料や油を送るパイプなど使い道も様々です」。どれも船舶の安全な航行や乗員乗客を守る大切な生命線だけに、取り

船舶の安全な航行と人の命を守る  
多種多様なパイプを張り巡らせる



洋上で活躍する姿を思い描いて  
配管に魂を注ぎ込む

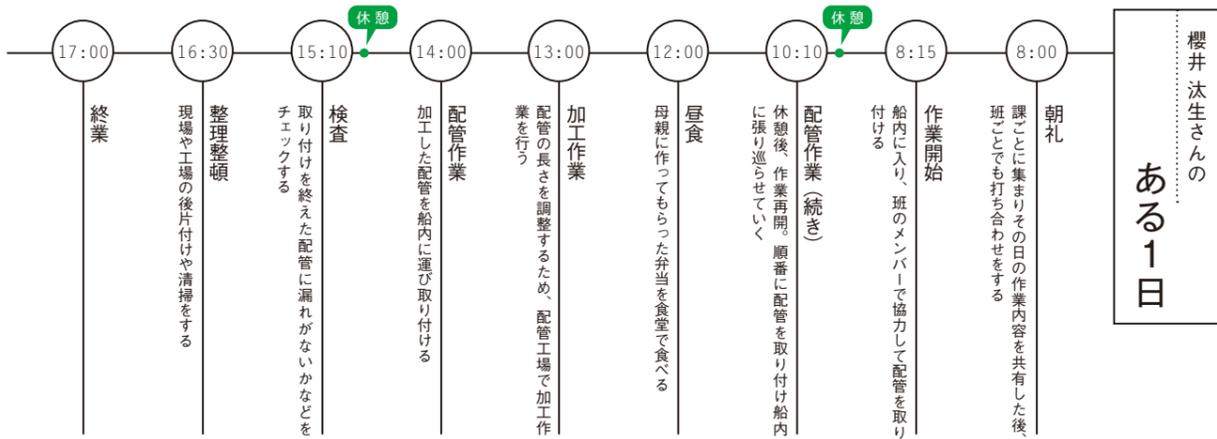
2本の配管の接合部分をボルトで固定する櫻井汰生さん



配管を機械でカットして長さを微調整する



溶接して金属同士をつなぎ合わせる



メモ帳には配管の種類や作業内容などが書き込まれている



図面を開いて作業の進め方を上司に相談する



資材置き場から必要な配管を選び出す



未来のACEへ  
先輩からの  
アドバイス

私が高校で溶接に興味を持ったことが、この会社に就職先を決めた理由の一つだったように、みなさんも自分が得意なことや興味を持ったことにチャレンジできる職場を探してみてください。そのためにも、普段からいろいろなことに興味を持って、視野を広げることが大切です。

ものづくりの仕事の魅力は、自分の手で作ったものが製品として残ることだと思えます。製品が形になった時に感じるやりがいと達成感最高です。それらを味わうために、毎日集中して仕事に取り組むことができます。

特に造船はスケールが大きく、作りがいがあります。また、宮城県は漁業や水産業が盛んなところで、それを支える造船の仕事にみなさんも興味を持ってくれるとうれしいです！

上司に聞く



生産部 機装課 課長代理 阿部 貴昭さん

どんな仕事にも積極的に取り組む姿勢を評価  
さらに知識を深め活躍の場を広げてほしい

どんなに難しい作業にも率先して取り組んでくれる。与えられた仕事が終わってもハキハキとした声で「次は何をしますか?」と上司や先輩に進んで指示を求める。こうした櫻井君の仕事に対する積極的な姿勢は、とても素晴らしいと思っています。

班の中では一番若手で、彼にとつて親と同年代の先輩社員や協力会社の社員とも接することがある職場で、上手に周囲とコミュニケーションを取り、先輩たちから可愛がられています。

配管の仕事は覚えることが多いので、まだ分からないことが多いと思いますが、引き続き前向きに努力を続けてほしいと思います。その後は、造船全体に関する業務や安全面に関する知識を深めてさらに仕事の幅を広げ、これから入社する後輩の指導の面でも活躍してくれることを期待しています。

ができたという。

造船は高度で緻密な技術の結晶  
これからも様々な船舶を送り出したい

船舶には、櫻井さんが心惹かれた溶接技術のほか、「ぎょう鉄」と呼ばれる加熱と冷却を繰り返して厚い鉄板を曲げていく技術など、多くの熟練技が施されている。「造船はスケールの大きなものづくりですが、一つ一つの作業はとても高度で繊細です」と説明する櫻井さんは、そのギャップが造船の魅力であると感じている。

同社で数カ月から一年以上かけて完成した新造船を初めて海に浮かばせる進水式。自ら製造に携わった船に乗り込み、船上から門出を祝うことができた時は、とても感動したという。

「でも、進水式でホッとできたのは最初の一隻だけ。洋上での試運転を経てお客様の前へ納めた船舶が、無事に航行しているという知らせを聞いてようやく安心することができるといいます」と明かし、プロとしての意識を垣間見せた。そして、「港で停泊する漁船の中から自分が作った船を見つけた時や、定期検査のために工場に戻ってきた船を見かけた時はとてもうれしいです」と笑顔で話した。

「これからは知識と技術を増やして、新しい船を送り出していきたいです」と意気込みを語る櫻井さんは、今日もひたむきに船に命を注いでいる。

CASE 02  
仕事図鑑

伝統技術と最新技術が融合  
造船で海上輸送の未来を拓く

配管工  
櫻井 汰生さん (20歳)  
株式会社ヤマニシ (石巻市)

ここがACEポイント!

大きな船舶の製造現場では、複数の作業員が協力して作業をすることが多い。効率良く確実に進めていくチームワークを鍛えるには、毎日の円滑なコミュニケーションが重要だ。「そのため、日頃のあいさつを特に意識しています」と櫻井さん。チーム内の声掛けの積み重ねが一体感を生み、高品質のものづくりにつながっている。

CASE  
**03**  
仕事  
図鑑

# 幅広い市場に電子部品を供給し 社会・産業・暮らしを支える

検査  
たかくら しょう  
**高倉 翔さん (27歳)**  
株式会社若柳タムラ製作所 (栗原市)

航空宇宙産業向け電子部品の  
電気特性検査や外観検査を担当

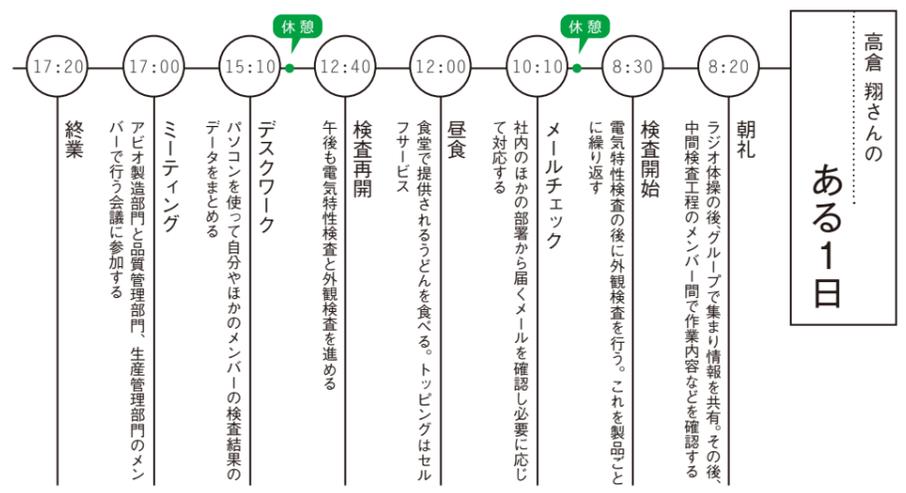
株式会社若柳タムラ製作所では、電子機器の電流を安定させたり電圧を変換させたりするチョークコイルやトランス、リアクタなどを作っている。高性能で高品質な同社の電子部品は、家電や産業機器をはじめ、自動車や航空機、人工衛星など幅広い分野で活躍。同社製のトランスは、宇宙航空研究開発機構（JAXA）から宇宙用標準部品の認定を受ける唯一の製品である。  
同社のアビオ製造部門で働く高倉翔さんは、検査機器の端子にコイルをセットし電



異常は絶対に見逃さない  
確かな検査で信頼を守る



1 中間検査で製品の電気特性をチェックする高倉翔さん  
2 検査機器が測定したデータは、パソコンに送られる。寸法などデータによっては、検査担当者が直接入力するものもある  
3 交流電流の電圧を制御する「トランス」と呼ばれる電子部品製造で技術の礎を築いてきた同社。電子機器に組み込まれる「チョークコイル」(右)や「リアクタ」(左)など様々な電子部品にも、長年培われてきた同社のトランス製造のノウハウが生かされている



製品にキズなどがないか顕微鏡で外観検査を行う



パソコンを使って検査結果のデータを集約する



作業の進行状況などについて上司と情報共有する



中間検査を待つ製品を棚から取り出す

**企業情報**  
株式会社若柳タムラ製作所  
所在地 栗原市若柳字川南上堤 40-1  
TEL 0228-32-2211  
https://www.tamura-ss.co.jp/  
※株式会社タムラ製作所ウェブサイト

代表取締役社長 木村 明  
資本金 4億8,000万円  
設立 1966年10月  
従業員数 113人(2019年4月現在)  
事業内容 電子部品・デバイス・電子回路の製造  
経営理念 人々の幸せを育むため、タムラにしかできないこと、タムラだからできることを極め、お客様や社会に喜んでいただける製品・サービスを提供し続ける「オンリーワン」カンパニーを目指します。

品ごとに検査のポイントをまとめた。新しい製品には、類似品のデータを自分で調べ特性を覚えていくという。  
「責任と不安を感じる中、コツコツと経験を積んでいきました。入社4年目になってようやく不安なく仕事ができるようになりました」と話す高倉さん。現在、アシスタントリーダーとして、リーダーのサポートや作業の振り分け、検査データの取りまとめなどの業務も担当している。  
アビオ製造部門で作られる電子部品は、航空機のほかにも人工衛星など宇宙分野でも使われている。高倉さんは、「国産のロケットにも私たちが製造に関わったトランスが使われています。打ち上げに成功した時は感激しました」と話す。  
これからも責任をもって最高の製品を送り出し続けたい。高倉さんの表情は充実感に満ちていた。

**未来のACEへ  
先輩からの  
アドバイス**

私は、岩ヶ崎高校(栗原市)の普通科を卒業後に東北職業能力開発大学校でものづくりの基本を学びました。もし、みなさんの中に「ものづくりに興味はあるけれど、工業系高校で専門的なことを勉強していないから……」と悩んでいる人がいたらその心配は無用です。ものづくりに興味がある人は、進学や就職を考えチャレンジしてみてください。

電気特性の計算式に数学や物理の知識が必要だったり、専門用語の意味を調べるために英語の知識が必要だったり。むしろ、みなさんが普段高校で学んでいる教科の大切さを実感しています。

ですから、みなさんには今勉強していることを大切にしたいと思っています。高校で勉強したこと、将来仕事を覚えるための基礎として役に立ちますし、「学ぶ姿勢」を、日頃から養うこともできるはずです。

企業情報

株式会社東北スヤマ

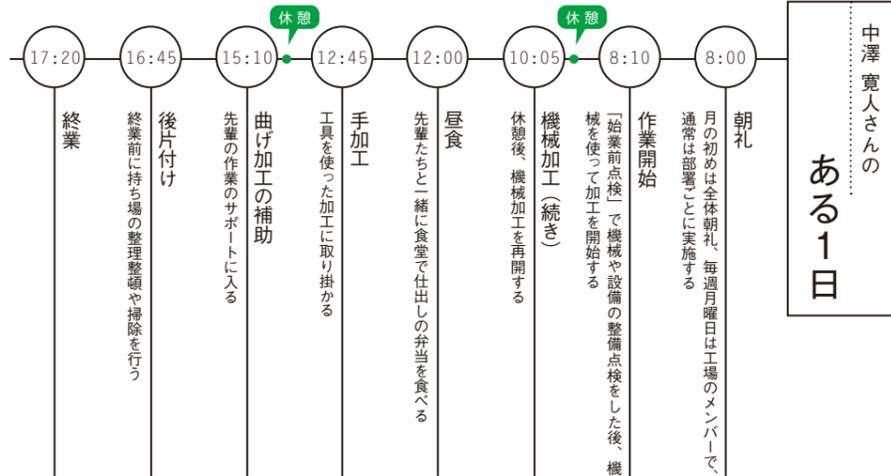
所在地 柴田郡村田町小池 32-6  
TEL 0224-83-5903  
http://www.thksuyama.co.jp/



代表取締役社長 白石 進  
資本金 1,500 万円  
設立 1996 年 5 月  
従業員数 48 人 (2019 年 6 月現在)  
事業内容 防火・防音・断熱等の各種スチールドアの製造販売  
経営理念 私どもは、お客様は勿論、取引先、株主、従業員、地域社会、並びに自然環境との共生のために常に自己研鑽に務めることをお誓いします。



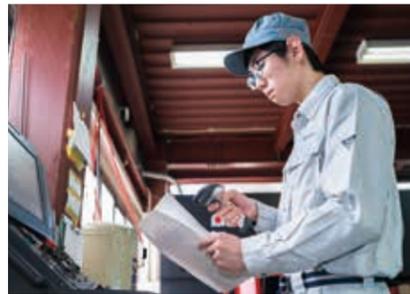
工具を使った穴開けなどの手加工を行う



自動タレットパンチプレスにセットする金型のホルダを清掃する。こまめな整備が大切



作業の合間に先輩社員が担当する曲げ工程のサポートに入る



伝票に記載されたバーコードを読み取り、加工データを自動タレットパンチに送る

**未来の ACE へ**  
先輩からのアドバイス

私は製造業の仕事について、「一人で黙々と作業する」イメージを持っていました。でも実際は、みんなで協力して作業をしたり、それぞれの持ち場で連携したりするチームワークが必要な仕事です。力を合わせて一つのものを作り上げるので、とてもやりがいを感じますし、先輩や仲間と達成感を共有できるのもうれしです。

共同作業が多いため、日頃からのコミュニケーションが大切です。分からないことがあれば、自分から積極的に人に聞くことが大事です。人に話しかけることや何でも聞く事に高校生のうちから慣れておくと良いでしょう。就職先を決める時も、先生やほかの大人に聞くと、その会社についての情報やどんなものを作っているかなど様々なことを知ることが出来るはずです。



仕事 CASE 04

# スチールドアが創る 快適で安全な空間

検査 中澤 寛人さん (19 歳)  
株式会社東北スヤマ (村田町)

「この機械は『自動タレットパンチ』と言います。この機械で金属の板を切ったり穴を開けたりします」

説明するのは、株式会社東北スヤマで働く中澤寛人さん。入社2年目の新人だ。タレットパンチの正式名称は、「タレットパンチプレス」。板金の打ち抜き加工で用いられるプレス機械の一種である。丸形や四角形をした様々な形の金型を駆使して金属板を打ち抜き成形加工する。

「日頃の整備点検はもちろん、機械の取



- 1 自動タレットパンチプレスに装着する金型のメンテナンスをする中澤寛人さん
- 2 スチールドアのフレーム加工は、大きな鉄板を使用するため、安全を確保して慎重に取り扱う
- 3 別のタレットパンチを操作し、部材に穴を開けていく

り扱いは十分気を付けています。身だしなみにも注意して安全な作業を心掛けています」と中澤さんは話した。

同社は、防火・防音・断熱などの機能を持ったスチール製ドアを製造する。同社が建築物の仕様に合わせたオーダーメイド品で、全てが受注生産。設計から加工、組立て、塗装、施工までの一貫生産で、東北や首都圏の高層ビルや商業施設、公共施設など様々な建築物での施工実績がある。

「とても有名な建物にも使用されているんです」とちよっと誇らしげに話す中澤さんは、1枚の鉄板からスチールドアのフレームに使われるパーツなどを切り出す工程を担当する。加工の最初の工程だけに責任を感じているという。

「どの案件から始めるか、順番を間違え

初めて見たものづくりの現場に心が動く先輩に支えられ成長する日々

村田高校で商業を学んだ中澤さんにとって、ものづくりは未知の分野だった。高校3年生の時、先生の紹介で地元企業である同社を初めて見学した。

職場は活気にあふれ、社員が優しく丁寧に案内してくれたという。工場では溶接や塗装の現場を見学し、金属部品の取り付け作業を体験することができた。「ものづくりは楽しい」と直感した中澤さんは、同社へ

# 技の肖像



ぬれた新聞紙を当て、高温のガラスの形を整えていく佐藤元洋さん

## 吹きガラス工芸家

溶けたガラスを鉄製のパイプに巻き取り、反対側から息を送って膨らませたり、遠心力で広げたりして成形する吹きガラスの技法。その歴史は古く、かつて地中海東岸で繁栄したフェニキア人が、紀元前1世紀頃に発明したと言われている。

1000℃を超える炉の中で熱せられ、赤々と光る水飴状のガラスは、外気にさらされるとみるみる冷めて固くなってしまふ。「竿」と呼ばれるパイプにガラスを巻き取り、炉から出した瞬間から、作業を途中で止めることはできない。

仙台市内に工房を構える佐藤元洋さんは、「吹きガラスは、刻々と変化するガラスの温度の見極めが大切です。途中で透明になってしまふため、見た目だけで温度を判断することはできません」と話す。作りた

い形が決まったら、工程をシミュレーションし、作業のタイミングを秒単位で導き出すという。

東北工業大学を卒業後、ガラス工芸の技術を学ぶため上京した佐藤さんは、同時に万華鏡の制作も始めた。「上京する前、実家の近くにオープンしたばかりの万華鏡美術館に行き、その魅力に惹かれました」

首都圏のガラス工房での下積みを経て2005年に帰郷、10年には地元秋保で工房を立ち上げた。これまで培った吹きガラスと万華鏡制作の技術を融合させた独自のガラス万華鏡は、国際的な万華鏡コンクールで最優秀賞を受賞するなど、高い評価を受けた。

「後世に自信をもって残せるような作品ができるまで、作り続けたい」と話す佐藤さんは、これからも繊細なガラスの塊に、静かに情熱を吹き込んでいく。



1. 竿に息を送りガラスの塊を一気に膨らませる 2. 竿を回転させながら、専用の道具を使ってガラスの口の形を整える 3. 時間が勝負のガラス工芸では、共同で作業することがある 4. 工房のギャラリーにはガラス万華鏡(右手前)をはじめ、カラフルな作品で彩られる

### 問い合わせ ガラス工房 元

仙台市太白区秋保町湯元字枇杷原西 18  
TEL 022-398-4123

## Report 技能士を 育てる。

宮城県内の企業には、優れた技術を持つ多様な技能士が活躍する。宮城のものづくりを支える匠たちを、企業がどのように育て、技を伝えているのかを紹介する。

### ハリウ コミュニケーションズ 株式会社(仙台市)

1936年創業。印刷物などの企画・デザイン・取材・撮影・印刷・製本までワンストップで手掛ける。課題解決のための仕掛け「コトづくり」と、印刷物をはじめとするあらゆる発信媒体を駆使する「モノづくり」で、企業や地域社会の様々なニーズに応える。

印刷機械のオペレーターは、機械の操作やメンテナンス、インキや用紙の補充、印刷版の交換などを担い、機械や紙の扱いなど、印刷に関係する様々な知識と技能が必要な仕事である。また、印刷物の仕上りのチェックも印刷オペレーターが行うため、「色」に関する知識や感覚も求められる。

ハリウコミュニケーションズ株式会社でオフセット印刷機を操る松井翔さんは、「同じ印刷物を数千枚単位で印刷していると、どうしても色合いに微妙なズレが生まれます。専用の測定器や自分の目でこまめに確認し、仕上りの色味を微調整します」と話す。この夏に1級印刷技能士の取得を目指す松井さん。1級を取得している先輩技能士による実技指導や、印刷メーカーでの研修会に参加するなど会社のサポートを受け、準備を進めている。また、同社では検定料の全額補助や合格者への技能手当の支給でも資格取得を後押しする。

同社では、印刷技能士のほかに、「印刷営業士」や「DTPエキスパート」などの有資格者が印刷物づくりを支える。企画生産部の越路明美部長は、「受注からデザイン、印刷の各分野で高い知識や技能が認められたプロフェッショナルが活躍することで、高品質の印刷物が生み出されています」と話した。

## マシンと色を知り尽くした印刷職人

### 技能士 MEMO

#### 印刷技能士

印刷に必要な知識や技術を持つことを証明する国家資格を有する者。技能検定区分は、オフセット印刷作業、凸版印刷作業に分かれる

#### オフセット印刷

商業印刷物の印刷方法として広く普及している印刷技術。印刷版につけたインキを直接紙に印刷せず、ブランケットと呼ばれるゴムを巻き付けたローラーに転写し印刷する

### 企業情報

仙台市若林区六丁の目西町 2-12  
TEL 022-288-5011  
<https://www.zundanet.co.jp/>



事業内容：印刷物・ホームページ・企画・デザイン・取材・制作・編集・出版、印刷、看板サインの計画・施工、イベント企画・運営、DVD-ROM・CD-ROM制作、サーバーレンタル、映像媒体の企画・制作・編集、学・社教育支援業務

技能士数：のべ5人(2019年6月現在)

技能職種：印刷技能士



1 2級印刷技能士の松井翔さん。「製品の仕上がりを確かめながら、ものづくりの楽しさとやりがいを実感している」と話す 2 何種類かのインキを混ぜて作る「特色インキ」の調合作業。技能検定の実技試験でも技術が問われる重要な作業だ 3 印刷営業の高い知識と技能を持った「印刷営業士」の大場秀克さん(左)と、パソコンで印刷物のデザインやレイアウトをする知識を持った「DTPエキスパート」の高橋幸恵さん(右) 4 オフセット印刷機にインキを補充する1級印刷技能士の遠藤光浩さん。ヘラを使って全体をならしながら、インキの硬さや流動性を確認する

## 縫製業には女性の力が不可欠。会社ぐるみで成長と活躍を支援



工場長  
清水 朋弥さん

明るく元気で笑顔が絶えない佐藤さんの周りにはいつも和やかな空気に包まれています。仕事に対する責任感をしっかり持ち、先輩たちの言葉に素直に耳を傾けノウハウを吸収しています。入社2年目、伸び盛りの佐藤さんは頼もしい若手社員です。

弊社は社員の8割以上が女性で、現在の女性管理職比率は50%と女性が活躍している職場です。新入社員に対しては、先輩社員が仕事の進め方や心構えを教えたり、不安や悩みを聞いてアドバイスしたりする「ブラザーシスター制度」の導入はもちろん、社員全体でサポートしています。

昨年度に産休・育休を取得した社員の職場復帰率は100%。女性がずっと活躍できるような環境づくりを今後も進めたいと思います。

### 白石ポリテックス工業株式会社

1968年創業。プリーツ加工のエキスパートとして、時代や流行の変化に対応した高品質のものづくりで、アパレル業界のニーズに応える

刈田郡蔵王町宮字上原田東 79-1  
TEL 0224-22-8861  
http://polytex.jp/  
従業員数 98人 / 女性 80人  
(2019年6月現在)



**洋** 服を借りたり、一緒に買い物に行ったり。姉の影響もあって子どもの頃からファッションに興味がありました。高校生の時には、地元の衣料品店でアルバイトを経験し、将来はファッション関係の仕事に就きたいと考えていました。

高校3年生になり就職先を決める時に、学校で会社の求人票を見つけた。服を作っているところを見たのは生まれて初めて。工場でみなさんが楽しそうに作業をしている姿を見て「私も一緒にやってみよう!」と思い、求人に応募しました。職場は、私が以前通っていた蔵王高校のすぐ近くなので、通い慣れた場所です。働く安心感があります。高校時代の同級生にも気軽に会うことができ、仕事が終わった後にご飯を食べに行ったり、休日にショッピングやライブに出かけたりして楽しんでいます。

**地元の職場は安心。休日は高校時代の友達と出かけて満喫しています!**



おしゃれは足元から。休日はお気に入りのシューズを履いて出かけます

**特殊な機械を任せられドキドキする毎日。早く先輩たちのようになりたいです!**



**みやぎ  
ものづくり女子**

**「洋服を作っています」**

白石ポリテックス工業株式会社  
(蔵王町)

さとう れん  
佐藤 蓮さん



加工前の布(右)にプリーツ加工を施すと美しい折り目が現れる(左)

**プ**リーツと呼ばれる布にひだや折り目を付ける加工を担当しています。

スカートやブラウスなどに見られるプリーツ加工は、裁断・縫製した布に熱などを加えることで施され、機械を使う方法と手作業の2種類があります。私はプリーツ加工専用の機械を使って作業をしています。一つの機械を任せられているので責任重大ですが、その分やりがいを感じることもできます。

機械の設定は、布の素材や染料、その日の気温によっても微妙に異なります。私だけではまだ判断ができないため、ベテランの先輩に教えてもらっています。

先輩のみなさんはとても優しく、女性が多い職場なので安心して働くことができます。お昼休みには、食堂に集まって、おしゃべりをしながら昼食を楽しんでいます。

まだ、覚えることばかりの新人ですが、たくさんの経験を積んで早く一人前になりたいです。まだやったことのない加工にも挑戦してみたいです。縫製や検品などほかの工程もやってみたいと思っています!

# あすを拓く



株式会社コイワイ  
代表取締役  
小岩井 豊己さん

**プロフィール**  
1953年、長野県生まれ。75年、小岩井鋳造所（神奈川県秦野市）入社。83年、株式会社コイワイ代表取締役就任後、3Dプリンタを導入した積層砂型工法や金属粉末積層工法によるものづくりを展開する。2017年、日本積層造形株式会社（多賀城市）副社長に就任

積層造型を未来の<sup>ちゅうぞう</sup>鑄造技術と位置付け  
日本国内でいち早く3Dプリンタを  
導入した鑄造部品メーカー。  
社長の技能伝承と技術革新のビジョンが  
宮城県内で花開いている。

押し寄せる「3Dの波」に危機感を抱き  
3Dプリンタの導入を決断する

高温で溶かした金属を砂型に流し込み、冷やし固めることで成形する鑄造は、複雑な形状を作るために欠かせない技術である。創業以来、40年以上鑄造業を営んできた同社に転機が訪れたのは、2000年初めての出来事だった。

当時3DCADが普及し、コンピュータ上で3次元の設計データが短時間で作成できるようになった。ものづくり業界全体で「スピード」が求められるようになり、その波は鑄造業界にも訪れた。鑄造では、金属を流し込むための砂型、その砂型を作るための木型といったマスターの型が必要となる。また、自動車のエンジン部品のような複雑な構造をした製品は、一度で造型することは難しく、いくつものパーツに分けて鑄造し、それを加工して組み付ける工法が取られていた。

「複雑な製品になるほど工期に時間がかかってしまう。短納期・高精度を求めお客様の声に応える方法の一つが3Dプリンタでした」と小岩井社長は話す。

急速な3D技術の進歩に危機感を感じた小岩井社長は、2003年にドイツの自動車メーカーが、3Dプリンタを活用した積層砂型工法を行っているを知った。早速、ドイツに向かい、実際に性能を確認。07年に国内の鑄造業界で先駆けて3Dプリンタを使った砂型積層造型を開始した。

「弊社にとって莫大な投資でしたが、他社と違う業界ナンバーワンの強みがほしいという思いから導入に踏み切りました」

宮城県内に工場を設置  
鑄造技術の伝承と担い手の育成を目指す

特殊な樹脂を混ぜた砂にレーザを当てるとその部分の樹脂が溶け、砂と一緒に固まる。その上に新たな砂が敷き詰められ、再びレーザが照射される。これを繰り返すことで、木型を作らなくても3Dデータから直接立体的な砂型の造型が可能になった。こうして、従来の工法では1カ月かかっていた自動車エンジン部品の試作品が、最短3日で完成させることができるようになった。その後新しい3Dプリンタの導入を続けた同社の元には、国内外のメーカーから注文が相次ぎ、取引を広げていった。2012年には、金属粉末積層造型装置を導入。レーザを照射し金属粉末を溶かし固めることで、金属製の立体を直接造型できる技術を手に入れた。

「新しい技術を取り入れる一方で、熟練技能者が培ってきた従来の鑄造技術の伝承にも力を入れました」と話す小岩井社長。2004年に、宮城工場（大河原町）を設置し、宮城県内の高校新卒者を継続的に採用した。そして13年には、同工場にも最新の砂型積層造型用大型3Dプリンタを導入した。

「鑄造と積層造型の両方の技術を磨くこと

で、これからの業界を担う人材に育てほしいという願いがありました」

「異業種間交流」で技術革新が加速  
鑄造の未来を拓く

国内鑄造業界における3Dプリンタ技術のパイオニアとして走り続ける同社は、大手メーカーの試作開発をはじめ、経済産業省や宇宙航空研究開発機構（JAXA）、大学などと連携して様々なプロジェクトに参加している。そこで小岩井社長は、企業が自社の技術をオープンにし、他社や国、大学など異なる業種・分野のノウハウと組み合わせることで技術革新を進める「オープンイノベーション」の力を目の当たりにしたという。

「自社の技術を他の技術と融合することで新しい発見が次々と生まれました。これまで技術は『守るもの』でしたが、情報化が進む現代社会において、情報をオープンにするメリットを実感しています」

2017年には、大手総合商社と共同で3Dプリンタによる金属積層造型を手掛ける日本積層造形株式会社（多賀城市）を設立した。19年にはスタートアップファクトリーみやぎが完成し、オープンイノベーションへの期待がさらに高まる。

「鑄造技術の伝承と人材育成、3Dプリンタによる新しい鑄造技術の確立。宮城工場を立ち上げてから着実に形になっていきます」と小岩井社長は感慨深げに語った。



3Dプリンタによる金属積層造型技術で作られた製品。3次元データがあれば複雑な形状でも直接造型が可能だ

2019年4月、株式会社コイワイ宮城工場（大河原町）の隣に「スタートアップファクトリーみやぎ」が竣工した。3つの建屋で構成される同工場は、それぞれの建屋で鑄造、熱処理、3Dプリンタによる造型が行われる。造形容積160リットルを誇る世界最大級の3Dプリンタを国内で初めて導入し、従来の設備では造型が難しかった自動車産業や航空宇宙産業向けの大型部品の試作や量産が可能になった。同工場では、生産設備を持たないベンチャー企業などにも貸し出し、新しいものづくりをバックアップする。

小岩井豊己社長は、「今後、3Dプリンタによるものづくりがさらに加速すると考えています。3Dプリンタ技術を未来の鑄造技術と位置付け、弊社がこれまで培ってきたノウハウとの融合を目指します」と力強く語った。



3Dプリンタで作られたエンジンブロックの砂型。複雑な造型が木型なしで再現できるようになった



JAXAとの連携で開発した国際宇宙ステーション向けの小型カプセル用ノズルの製造を同社が手掛けた



スタートアップファクトリーみやぎに導入された金属積層造型装置「X LINE 2000R」

## 株式会社コイワイ

1973年創業の鑄造メーカー。2007年に積層砂型造型装置を、12年に金属粉末積層造型装置を導入し、国内の3Dプリンタによるものづくりを牽引する。19年にはインド工場開設予定

■所在地  
本社：神奈川県小田原市羽根尾 244-6  
宮城工場：柴田郡大河原町金ヶ瀬字川根 69-1  
スタートアップファクトリーみやぎ：  
柴田郡大河原町金ヶ瀬字川根 105-1  
TEL 0224-51-5370 (宮城工場)  
<http://www.tc-koiwai.co.jp/>



みやぎ移住ガイド



宮城県へ移住・就職を考えている人向けの情報サイト。県内企業の求人情報のほか、県内の全市町村の魅力や移住者のインタビュー記事が掲載されている

https://miyagi-ijuguide.jp/



宮城県高等技術専門校 障害者職業能力開発校 オープンキャンパス情報

授業料や訓練内容、卒業後の就職先の情報をはじめ、施設見学や体験実習などを行います。みなさんの来場をお待ちしています!

- 【開催予定日】
白石高等技術専門校
7月26日(金) 13:00
8月24日(土) 13:00
仙台高等技術専門校
7月27日(土) 9:00/13:00
9月1日(日) 9:00/13:00

- 大崎高等技術専門校
7月26日(金) 10:00
9月7日(土) 10:00

- 石巻高等技術専門校
7月20日(土) 13:10
8月30日(金) 13:10

- 気仙沼高等技術専門校
9月7日(土) 9:00

- 障害者職業能力開発校
8月23日(金) 13:00
10月4日(金) 13:00

詳細については、各校のウェブサイトまたは直接お問い合わせください。

「U・J・ターニング人材の確保をサポート」
「移住支援金」の支給対象法人を募集
宮城県では、東京圏から宮城県内に移住し、県内で就職した人に対し、移住支援金を支給する事業を実施して...

登録された法人の求人情報は、県が運営する「みやぎ移住ガイド」や大手民間求人サイトに求人情報が掲載されるほか、掲載する求人情報を作成する支援も受けられる。さらに、首都圏の移住相談窓口「みやぎ移住サポートセンター」の相談員が、登録法人の魅力などを詳しく説明し、首都圏のU・J・ターニング求職者とのマッチングを図る。

宮城県地方創生インターンシップ事業
参加学生および受け入れ企業募集
県内製造業等の人手不足解消と人材確保を図るため、県内企業でインターンシップを実施します。そこで参加を希望する大学生等と受け入れ企業を募集します。

Table with 2 columns: 開催日および会場, 開催日, 会場. Includes dates from 7月3日 to 7月24日 and venues like 気仙沼市総合体育館, ホワイトキューブ, etc.

【開催予定日】
日時/8月3日(土)~5日(月)
10時~17時
※最終日は16時まで
場所/夢メッセみやぎ(仙台市)
問/宮城県技能振興コーナー
TEL 022-1725-15380

これからのイベント開催情報

○高校生のための合同企業説明会
企業と高等学校教諭との就職懇談会

○ものづくりフェスタinみやぎ
2019

宮城県の卓越した技能が一堂に会し、体験や実演を通じて、ものづくりの大切さや魅力を感じることができると好評です。技能士団体等によるものづくりが楽しめる「体験教室」や、技能士の熟練の技を見ることが出来る実演コーナーがあります。

ものづくり人材の育成・確保および技能・技術の伝承

5月29日、黒川高等学校(大和町)で、ガソリン車の日常点検の実習が行われ、機械科3年の生徒16人が、自動車整備のプロから指導を受けた。

ラグなど各部品の位置を確認しながら状態を確認した。山口さんは、「生徒の中には、卒業後に自動車関連の仕事に就く人もいます。今回の実習が自動車産業への興味関心につながると話した。



エンジンオイルの点検方法について解説する山口直人さん



生徒は車体番号やパーツの位置などを確認した

ことを今後になかしていき「たいです」と話した。同実習は、宮城県内の工業系高校と企業などが連携し、ものづくり人材の育成

に取り組み「クラフトマン21」事業の一環。今年度も、機械加工や溶接など様々な分野で高度な技術を持った技能者が高校生を指導する。

現代の名工の功績を称える
第55回全国表具経師内装組合連合会 全国大会



全表連の佐藤岩夫会長(右)から表彰を受ける守谷滋さん(左)

6月18日に「第55回全国表具経師内装組合連合会(全表連)全国大会」が仙台市内のホテルで開催された。宮城県内での開催は今回4回目で、襖や障子、掛け軸、屏風、壁紙の仕立て



会員の前でお礼のあいさつを述べる守谷さん

を手掛ける会員が全国から集まった。同大会の中で、昨年度に卓越した技能者(現代の名工)の表彰を受けた宮城県表具内装業連合会の守谷滋さんが紹介された。



全国からたくさんの会員が集まる中、大会が肅々と進められた

内装仕上げ工として30年以上従事する守谷さんは、織物や不織布、フェルトなどを紙で裏打ちした壁紙(布クロス)を処理する技能が高く評価されている。2007年に全国の技能者

が技を競い合う技能グランプリで1位を獲得した実績や、これまで県内外で技能講習の講師を務めている功績が表彰につながった。守谷さんは「あらためて表彰の重みを実感しています。今後もさらに精進して参ります」と話した。現代の名工は、卓越した技能で業界の振興に貢献した技能者を国が表彰するもの。昨年度は宮城県内で守谷さんを含めた10人が表彰され、これまでの受賞者は668人にのぼる。



企業PRのポイントについて解説する高木茂代表



掘り起こした自社の魅力について発表する参加者

5月20日、県内の中小企業が、高校・大学などの新卒者の採用活動のポイントを学ぶ、恒例の「企業採用力向上セミナー」が県庁で行われた。セミナーには、26社の採用担当者、経営者などの54人が参加。午前の部では、講師を務めたオフィス55(仙台市)の高木茂代表が、高校新卒者採用に関する最新情報や活動の基本などについてのポイントを分かりやすく解説した。

「ワークシヨップを通して、新卒者採用に必要なポイントを再確認できました。今後の活動に生かしていきたいです」と話した。同セミナーは、2009年から行われており、今年で11年目。今年度は、県庁のほか、宮城県産業技術総合センター(仙台市)や石巻市、気仙沼市、大崎市でも開催された。8月には、仙台市内で大学新卒者採用をテーマに同様のセミナーが行われる予定。